

高津区おはなしアーカイブ

- 川邊 禮子 (かわべ れいこ)さん
昭和10年生まれ 83歳
川崎市高津区久地在住



◆ご実家の思い出

私が子どもの頃から長い間久地には家が8軒しかなかったですよ。皆なにかと助け合って暮らしていましたね。

兄妹は4人でした。私が長女ですぐ下の弟と私は戦前生まれです。父が復員してから妹と弟が生まれたんです。ずっと祖母も一緒に暮らしていました。ただ、父が復員して間もなく祖母が脳溢血で倒れてしまっただけで、母が一番大変だったと思います。その頃は家で看るのが当たり前でしたから、私もずいぶん世話を手伝いました。今は介護の制度があるから幸せですよ。

実家は農家だったの。家は土手のすぐ向こうにあってね、物心ついたころには父は農業をされていて、梨や桃、柿などの果物を主に、野菜なども作っていました。スイカが盗まれるので、見張り小屋を作って皆で夜なべで見張りをしたこともありましたね。下の2人は小さいから、私とすぐ下の弟が手伝いに駆り出されることが多かったですね。

実家は3軒建て替えしたの。1軒目は私が生まれた時から住んでいた家ね。昔からの藁ぶきの家でした。小学校から、中学校の時まで2軒目の家で暮らしました。その後父が復員してすぐにもう一度建て替えて、今は3階建てのコンクリート造りになっています。もったいなかったんですけど、それまで使っていた五右衛門風呂が壊れちゃったのでね。3軒目を建ててほどなく父は61歳で亡くなりました。

父は機械好きで、縄をなう機械とか、お餅をつく機械なんかも使っていました。私も手伝いましたよ。

◆食べ物

お魚は行商が売りに来ていました。多摩川でマルタっていう魚が獲れたんですよ。それを籠に入れて売りに来ていました。マルタっていうのは大きくて骨の多い魚でね。ハヤは焼いたり煮付けたりしていました。お腹が赤い綺麗な魚です。

そのころはエビも捕れたのよ。ザリガニもいっぱいいて茹でてしっぽのところを食べたの。エビみたいな味ですよ。

お肉は、ニワトリを家で飼っていたので、卵や肉を食べていました。庭で放し飼いでしたね。

そうそう、今の図書館の前あたりに中野ベーカリーっていうお店があつてね、小麦粉をもっていくとコッペパンを焼いてくれました。美味しかったですよ。

味噌、醤油、お茶、自家用の物はたいてい自分の家で作っていました。

◆小学校・中学校

小学校は高津小学校に通いました。15年入学、20年卒業です。校舎は木造2階建てで、2階の教室は6年生が使える決まりでしたが、私たちは5年生の終わりごろから2階を使わせてもらっていました。小学校の時は男子と女子は別のクラスでした。5組まであったかな。中学校ではA組B組C組っていうクラス名だったわね。

服装は小学校のころからずっと洋服で運動靴を履いていました。物がなかなか手に入らなかった頃だけど、どこで買っていたのかしら。

中学は高津中学校です。私たちの学年が1期生だったんですよ。現在の中央支援学校があるところが高津中学校でした。橘高等学校と同じ校舎を使っていました。校庭は道路を超えた向こう側にあつて、体育の授業は道路を越して行かなくてはならなかつたの。

中学校の3年間はクラブ活動でソフトボールをやっていました。

◆遊び

お手玉とかおはじきでよく遊んでいました。お手玉は自分で縫って作っていました。ジュズダマっていう草の実や小豆を中に入れていました。今でも作り方を覚えていますよ。

小学校のころ夏には先生に多摩川に連れて行ってもらって泳ぎました。友達同士で行ったこともありましたがね。あの頃は多摩川の水が綺麗でしたね。

小学校5年生の時にまだ珍しかった自転車を買ってもらいました。小田中に親戚がいて、盆暮れには自転車に乗ってそこまでお赤飯やお餅などを届けに行っていました。溝口から坂戸に出て、両側が笹藪で幅が6尺ほどの道でした。途中にお宮があつて、暗くつてそこを通るのが怖かったです。母の実家が瀬田にあつて、そちらも坂道で大変でした。自転車に乗るのは遊びというより手伝いだつたかな(笑)。

◆戦争の記憶

中学生の方たちは戦時中には勤労奉仕に行っておられましたけれど、私は小学生でしたから行かなかつたですよ。それに家のことを助けなくちゃならないっていう事情がありましたから、疎開もしていません。歳が少し上の昭和8年、9年生まれの方たちは疎開した方が多かつたですね。

実家の柿の木の下に防空壕が作ってありました。そこに箆筒を入れていたのですが、ずっと放ったらかしにしていたもので、ボロボロになっちゃいました。幸い実家の周囲は土手で、爆撃機に狙われるような目当てもなかったので何も落とされなかったですが、警報が鳴ると弟をおぶって防空壕に入りました。この近くだと津田山のお墓があると落ちて落ちましたね。

終戦は5年生の終わりごろでした。天皇陛下の玉音放送は家で聞いたような気がするけれど、よく覚えていませんね。ただ父が帰ってくるのが嬉しくて楽しみでした。寂しかったですからね。

父が帰ってきたとき髭を生やしていたし、サーベルを2本も下げていたのでなんだか怖くって、記念写真を撮る時にも私はよその家の縁の下に隠れて出てこなかったの(笑)。

戦時中も戦後も食べ物に苦労したことはないですね。家で麦を作っていたから麦ごはんはよく食べました。

◆お正月・お祭

お正月は3段のお重に料理を詰めていました。タケノコが手に入らないから、実家の竹藪を掘って採っていました。竹が生えていると地震に強いからいいんですよ。他にフキも採ってきて煮物などしていましたね。

お雑煮はサトイモ、コマツナ、大根を入れた濃いめの澄まし汁です。お餅は昔は茹でていましたけど今は焼いたお餅を入れるようになりました。

お祭りは子どものころの楽しみでした。久地神社のお祭りに行っていました。青年団の人たちでお芝居をやっていたり、綿あめ、べっこう飴、笛などを売っていたりして、お小遣いを貰ってそういうのを買うのが楽しかったです。アイスクャンデーが5円くらいの時代です。

◆高等学校時代

高津高等学校で2年間、1クラスは30人ほどで和裁を学びました。四つ身、一つ身の綿入れや、ちゃんちゃんこ、浴衣など何でも縫えるようになりました。

その後、家庭科に進み、学校に通いながら、編み物教室、ドレスメーカー女学院(洋裁)、生花、書道など習いました。

◆アルバムでたどる思い出



思い出の詰まったアルバムを見ながら

中学1年の遠足で江の島に行った時の写真ですね。こちらも中学の時、日光へ行ったんです。

これは卒業式の時。もう亡くなった方が多くて寂しいですね。

七五三の写真、この着物は祖母が買ってくれたんです。

父が兵役から帰宅した時の写真だわ。帰ってくる時にはいつもお菓子などのお土産を持って帰ってくれました。

◆結婚

19歳の時、高津高校へ2年間通った後、更に家庭科に進んだころは、学校に通いながら和裁教室に通っていたんです。その教室には近くの高津警察にお勤めの方々がよく遊びに立ち寄っておられたんですよ。主人もそこに来ていて、農業のできるお嫁さんを探していたとかでね、そんなご縁で昭和30年に20歳で結婚することになったんですよ(笑)。

夫は男2人女3人の5人兄妹でした。27歳から消防署に勤めていて、最後に勤めたのは宮前区の消防署長でした。

嫁に来た時もまだ久地には8軒しか家が無かったです。近所の人たちが毎日この家の縁側にお茶飲みに来ていました。この家は何だか集会所みたいでね、今もよく人が集まってこられますけどね。

姑は38歳の時に夫を亡くしたのですが、その時一番上の子どもは16歳、一番下が3歳でした。以来、女手で男の子2人、女

の子3人の5人の子どもを育ててきたんです。

ですから嫁いできた私も田植えや稲刈り、麦撒きも、何でもやりましたよ。梨の袋掛けは腰を低くしてやらなくちゃいけなくて大変でしたね。稲刈りをした後に、野球のボールがいっぱい落ちていて、拾い集めて学校へ持って行ったりもしていましたね。

結婚当初、お店はキャンデー屋さん、エンドウ商店っていう酒屋さん、酒屋は他にも何軒かありましたね。それから下駄屋、お茶屋、漬物屋、薬屋(ハイフキヤ)、八百屋(十字屋の本家で、溝口店は弟さんがやっているのよ)などがありました。酒屋でちょっとした日用品や菓子なども置いていました。近所で賄えない買い物は溝口まで歩いて行っていました。

◆現在

現在は長男夫婦と孫3人と暮らしています。お嫁さんとも31年間仲良く同居しております。息子が結婚した時は夫も夫の母も妹もまだいたのですが「一緒に住みましょう」と言ってくれたんですよ。いいお嫁さんです。

畑は長男がやってくれています。キャベツやブロッコリーなど自分たちが食べるものだけ作っているんですけどね。

楽しみはね、老人会で旅行のグループがあつて、皆さんと一緒にあちこち行っています。信州へは市老連からバス23台に1、

000人以上で行きました。会津若松へは8台で。仲間が一緒だと心強いし楽しいですよ。

農協の旅行で外国も何度も行きましたよ。フランス、スイス、アメリカ西海岸など。カナダには2回行きました。最後に行ったのはトルコでしたね。

農協ではカラオケもあるし、この前までは書道も習っていました。忘年会や新年会もあるし、結構忙しく楽しんでいます(笑)。

今は本当になんでも買えるし旅行も行けるし、幸せです。

(平成30年10月9日取材)